



植竹中だより



目指す生徒像: 自ら考え、行動できる生徒 「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115

さいたま市立植竹中学校
FAX 048(665)6377

収穫の秋

校長 上続 昌司

職員玄関のドアを開けた瞬間、キンモクセイの香りが心地よく感じられ、とても良い気分させてくれます。キンモクセイの通常の開花時期は、9月下旬から10月上旬頃だそうです。夏の厳しい暑さが開花の時期を遅らせているようです。気温や季節の変わり目等を狂わせ、「例年通り」という言葉が当てはまらないことが本当に多く感じられます。食材や花の咲く時期、気温等で季節を感じることができていたのは、いつの頃の事だったか思い出せません。地球温暖化の影響が話題になることが増え、意識をするようになってきていますが、なかなか効果が出ていないのかもしれませんが、四季を感じることができると日本の風土が戻ってくるように、一人ひとりが努力することが大切ですね。

さて、10月21日に、さいたま市駅伝競走大会が荒川総合運動公園で開催されました。市内63校の中学校が参加し、植竹中学校は男女共に6位入賞、そして、共に県大会出場を決める快挙を成し遂げてくれました。これは選手一人ひとりが1秒でも速く次の走者に繋げようと必死に走った頑張り、それを精一杯サポートした生徒、そして、指導した先生方の力が一つになった結果だと思います。また、駅伝大会に向けて多くの生徒から応援メッセージもあり、大きな励みとなったのではないかと思います。駅伝は個人の競技とは違い、チームで順位を競うからこそその難しさがあります。走り終わって直ぐに涙を浮かべ悔しがる選手がいました。一人ひとりのタイムが最終的な順位となるため、個々が背負うプレッシャーは大きなものとなります。しかし、「1秒でも速く」というみんなの想いが繋がって、県大会出場という目標を達成できたことに間違いなし、精一杯走っている姿は、とてもカッコ良かったです。チーム植竹の皆さんに、最大限のエールを送りたいと思います。さらに、11月8日に熊谷で行われる県大会でも、みんなの想いが詰まった襷を繋ぎ、最高の笑顔を見せてほしいと思います。

10月はもう一つ大きな行事、合唱祭を開催しました。1学期に各クラス曲を決め、指揮者、伴奏者を中心に練習を重ねてきました。今年も、音響設備が大変充実している市文化センターで開催することができ、幸運であったと思います。そんな立派な会場で始まった合唱祭は、今年も各クラス、各学年の心のこもった歌声を聴かせてくれました。歌う前にクラスの取組についての紹介がありますが、どのクラスにもドラマがあり、様々な出来事を乗り越えて来たことが伝わってきました。そして、クラスの歌と共に毎年楽しみにしているのは学年合唱です。300人の合唱は迫力があり、大きな波のように2階席にも響いてきました。

「歌を歌う」という行為は、積極的な気持ちの表れだと私は思っています。まずはパートごとに音を覚え、楽譜通り歌う練習から始まります。同じパート同士の練習では音程が取れたとしても、他のパートと一緒にになると音程がくるってしまうこともあります。音楽の授業だけではなく、クラス練習や学年練習を重ねていく中で、徐々に完成へと繋がっていく合唱の良さを味わえたことと思います。休み時間、廊下を移動している時に2、3人で合唱曲を歌いながら歩いている生徒もいました。こんな当日までの練習風景や取組も合唱祭ならではのものです。心のこもった歌声は、聴いている人はもちろん、歌っている本人達の心も豊かにしてくれます。特別審査員としてお越しいただいた塩谷先生は、合唱の素晴らしさはもちろん、全校生徒の態度に感心していました。ブザーの音が鳴ると会場が静かになり、演奏が始まればしっかりとした態度で聴いていた様子を見て、大変褒めていただきました。これは、全校生徒の皆さんが日頃から心がけている証だと思います。

積極的な行為である「歌」を通して掛け替えのない時間を過ごせたことを、この後の生活にも生かしていきましょう。「収穫の秋」という言葉もあります。行事を通して得られたのは、結果だけではなく目には見えないけれど、クラスや学年等の仲間との絆も大きな収穫ですね。

最後になりますが、当日はお忙しい中、また遠いところまで足を運んでいただいた、学校運営協議委員の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

